

**【問題】**

現代における社会問題は、複雑化・複合化している。その中でも「8050問題」というものがある。「8050問題」とは、80代になった親が引きこもっている50代の子供の生活を支えることであり、生活の基盤のすべてを親が担うものとされている。80代の親も、引きこもっている50代の子供も、社会や支援につながらないことが問題視されている。社会福祉分野の専門職として、8050問題を解消するための支援を行う場合、どのような支援を行うか。あなたの考えを800字以内で論ぜよ。

**【模範解答】**

8050問題とは、高齢期に入った親が、長期にわたり社会的に孤立した中高年の子を経済的・生活的に支え続ける構造であり、親子双方が地域や制度的支援から切り離されている点に深刻さがある。社会福祉分野の専門職がこの問題に取り組む際には、個人ではなく「世帯全体」を支援対象として捉える視点が不可欠である。

まず、親子がなぜ支援につながっていないのか、その原因や背景を丁寧に把握する必要がある。8050問題が起こっている世帯では、長年の引きこもりや家族内での役割の固定化により、今さら相談できないという気持ちや、外部に知られたくないといった心理的にもハードルが高いものである。そのため、専門職は来所を求め相談に対応するということを前提とせず、アウトリーチを通じて関係形成を行い、不安や価値観を尊重しながら信頼関係を築くことが求められる。

また、親に対しては、介護予防や福祉サービスの導入、経済状況の整理を通じて将来不安を軽減する支援が重要である。親自身が安心して生活を見通せるようになることは、世帯全体の安定にもつながる。一方、子どもに対しては、職に就かせることを急ぐのではなく、居場所づくりや相談しやすくなるための環境整備、福祉領域と関連している専門職との連携により、段階的に社会とのつながりを回復させる支援が必要である。本人のペースを尊重し、小さな成功体験を積み重ねる視点が重要となる。

さらに、8050問題は単独の制度で解決できるものではなく、地域包括支援センターや生活困窮者自立支援制度、精神保健福祉分野など、多職種・多機関が連携した包括的支援体制の構築が不可欠である。社会福祉専門職は調整役として制度をつなぎ、当事者の尊厳を守りながら、孤立を防ぐ継続的な支援を行うことが重要である。加えて、地域住民や民生委員等との協働を通じ、見守りや早期発見につなげる視点も求められる。